

施工説明書

取付方法

アンテナマストは垂直に設置されていることを確認してください。マスト取付金具は直径48.6mm～90.0mmのアンテナマストに取り付けることができます。

■ SHA751

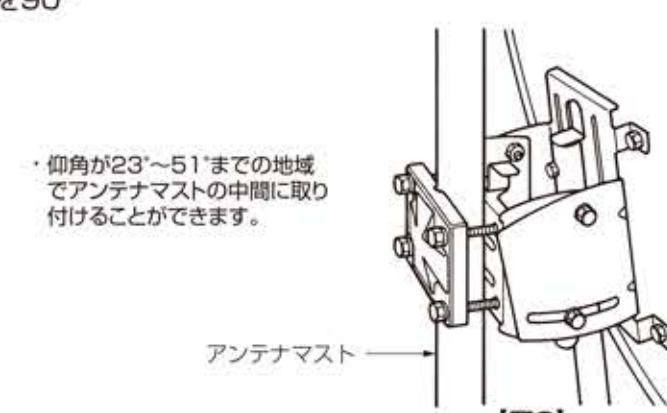
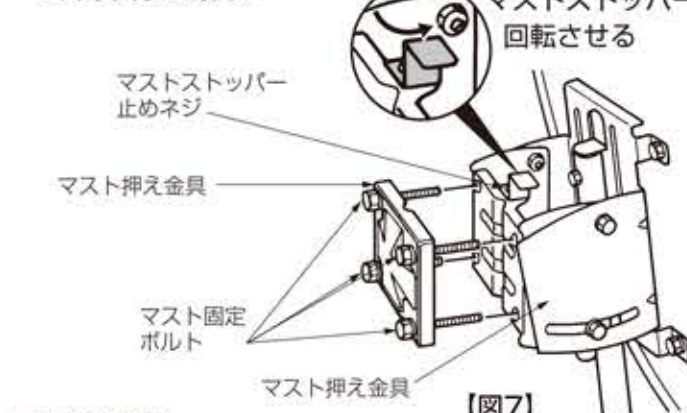
<アンテナマストの先端に取り付ける場合>

アンテナマストがマストストッパーに当たるまで差し込み、マスト固定ボルトを左右均等に締めて仮止めします。(図6参照)
(最終的な固定はアンテナを最良の受信方向に調整した後行います。)

<アンテナマストの中間に取り付ける場合>

- ①マストストッパーの止めネジを緩めます。(図7参照)
- ②マストストッパーをアンテナマストが当たらない位置まで回転させ、止めネジを締め付け固定します。
※地域によっては、中間取付ができませんので、ご注意ください。
- ③マスト固定ボルトを緩め、必要に応じてマスト押え金具をはずします。(図7参照)
- ④アンテナマストをマスト取付金具とマスト押え金具ではさみ、マスト固定ボルトで左右均等に締めて仮止めします。(最終的な固定はアンテナを最良の受信方向に調整した後行います。)(図8参照)

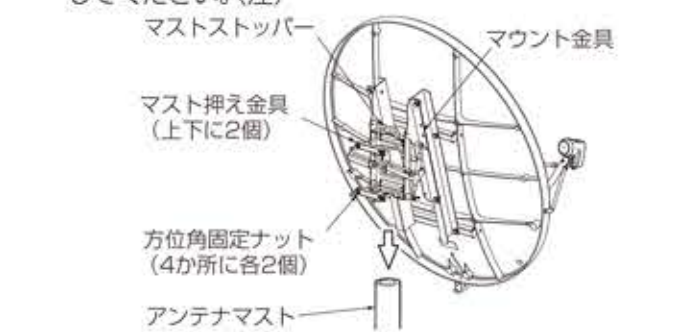
<中間取付の場合>



■ SHA901

<アンテナマストの先端に取り付ける場合>

- ①マスト押え金具(上下2個)とマウント金具本体の間にアンテナマストが入るよう方位角固定ナット4個を十分緩めてください。(図9参照)
- ②アンテナマストをマストストッパーに当たるまで差し込み、方位角固定ナット4個を左右均等に締めて仮止めしてください。(注)



(最終的な固定はアンテナを最良の受信方向に調整した後におこないます。)

施工説明書

調整方法 (つづき)

■ SHA901

<仰角の粗調整>

- ①(11ページ)「各都市の仰角と方位角」からアンテナ設置地区のおよその仰角を求めます。
- ②ターンバックルをスリナなどで回転させて、スライドアーム固定ボルトの中心を①で求めた仰角の位置に合わせて仮固定してください。(左右2か所)

<方位角の粗調整>

- ③(11ページ)「各都市の仰角と方位角」からおよその方位角を求めます。
- ④市販の方位磁石などでおよその方向を確認し、マスト押え金具の六角ナット(4か所)(※1)を緩めて反射鏡を回転させ、六角ナットを締めて仮止めしてください。

<仰角・方位角の正確な調整>

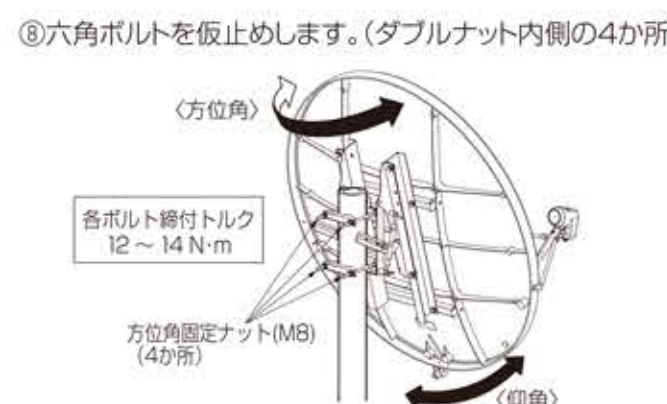
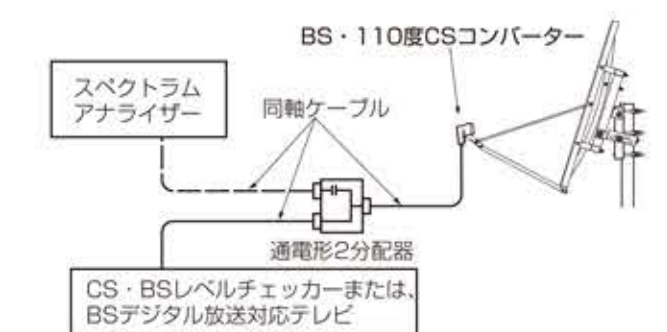
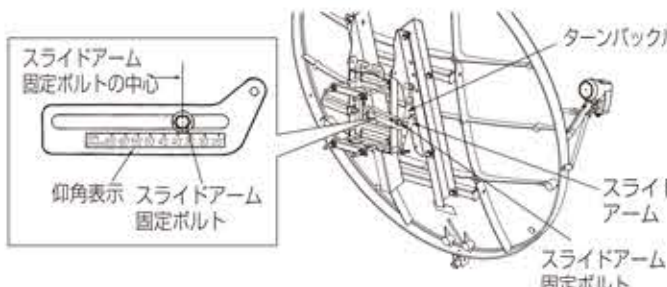
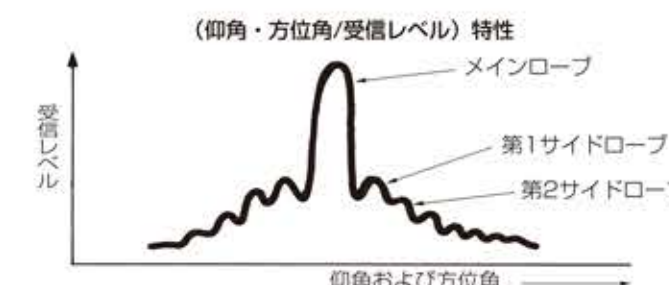
- ⑤正確な方向調整は実際に衛星からの電波を受信して行います。

図のようにBS・110度CSアンテナにCS・BSレベルチェッカーを接続するか、または通電形2分配器を用いてスペクトラムアナライザー、BSデジタル放送対応テレビなどに接続してください。

BS・110度CSコンバーターへDC15V電源を供給してください。(この項のご説明は、CS・BSレベルチェッカーを使用した場合で代表しています。)CS・BSレベルチェッカーでBS・110度CSアンテナ受信レベル表示を見ながら受信レベルが最大になるよう方向調整します。

- ⑥マスト押え金具の六角ナット(4か所)(※1)を緩めます。
- ⑦アンテナの方向を左右にゆっくりと振ってCS・BSレベルチェッカーで受信レベルが最大となる方向に調整します。

※このときにスペクトラムアナライザーを使用する場合、サイドローブと間違えないために、最大入力レベルを乗り越えて次のピークとなるところまで仰角および方位角を調整して、図の特性になっていることを確認してください。その後、最大受信レベル時(メインローブ)の仰角および方位角にアンテナの方向を戻してください。



- ⑧⑥から⑧までの方法で電波が受信できない時は、スライドアーム固定ボルトを緩めてターンバックルを回転させアンテナの仰角を少し(約2～3度)上または下にずらして、⑥、⑦、⑧の操作を繰り返し行なってください。
- ⑨次にターンバックルをアンテナの仰角を上または下にゆっくり振り、CS・BSレベルチェッカーで受信レベルが最大となる方向に調整します。

※このときにスペクトラムアナライザーを使用する場合、方位角と同様にサイドローブと間違えないためにこの振れを乗り越えて、次の受信レベルが大きくなるまでターンバックルを回して図のような(仰角・方位角受信レベル)特性になっていることを確認した後、受信レベルが最大(最良)(メインローブ)の仰角に戻します。

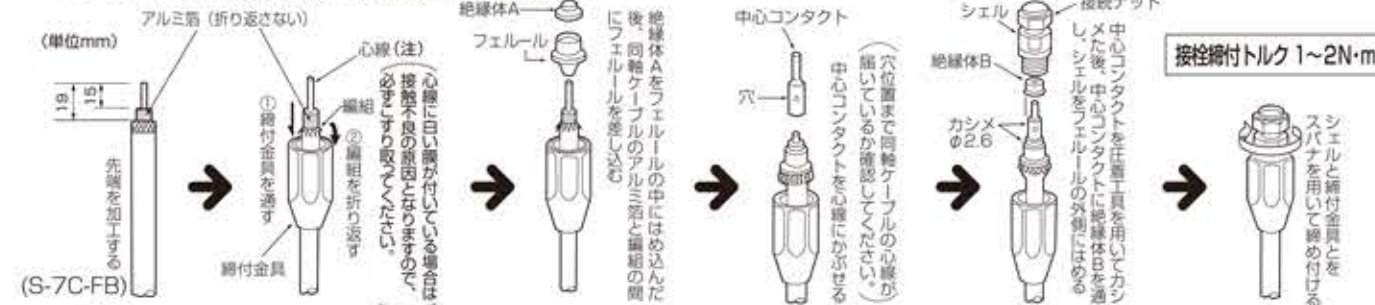
- ⑩スライドアーム固定ボルトを締めて仮止めします。
- ⑪再度、⑥、⑦の操作を行なってください。
- ⑫最良の受信状態となった位置で、マスト押え金具の六角ナットを方向がズレないように左右交互に締めしっかりと固定します。
- ⑬最後にCS・BSレベルチェッカーで受信レベルを確認しながら仰角の調整を行い、最良の状態ですライドアーム固定ボルトを左右交互に締めて、しっかりと固定してください。

施工説明書

同軸ケーブルの接続方法と出力端子への接続

・接続の種類によって同軸ケーブルとの接続方法が変わります。(接続例はS-7C-FBとS-5C-FBの場合で記載しています。)

<S-7C-FBと防水形F形接線の接続例>



- <ご注意>**
- ・4K/8K放送(3224MHz)に対応したS-7C-FBの同軸ケーブルをご使用ください。
 - ・同軸ケーブルの先端処理をする場合、心線、編組に傷をつけたり、心線、編組は絶対に接触しないようご注意ください。
 - ・編組と心線が接触しないようご注意ください。テレビが見えなくなるだけでなく、電源部がショートして火災や感電の原因となります。
 - ・接続を取り付けた同軸ケーブルの心線は、曲がっていないかを確認し、曲げないように接続してください。
 - ・加工方法はご使用になる防水形F形接線の取扱説明書をご覧ください。

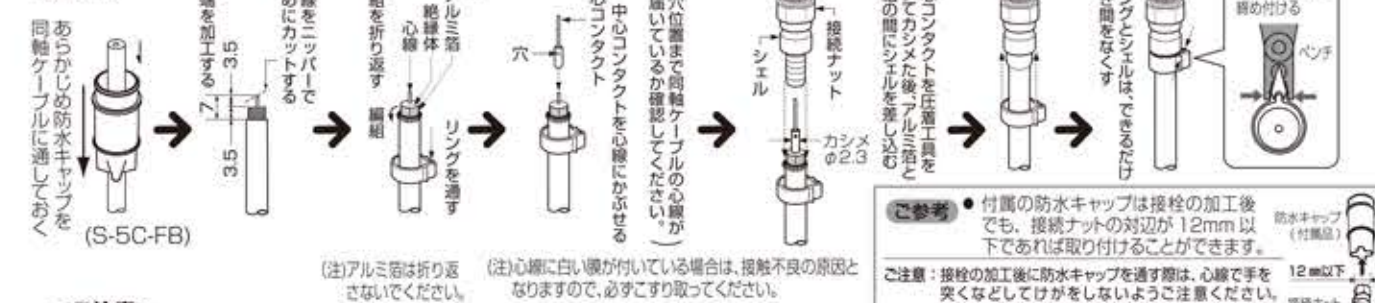
<出力端子への接続>

- ①図のようにコンバーターの出力端子に接続を接続し、スリナなどで1～2N・mで締め付けてください。(2N・mを超えると破損するおそれがあります。)



(※1) 防水形F形接線F-FH接線(別売)を使用する場合、付属の防水キャップは使用しません。

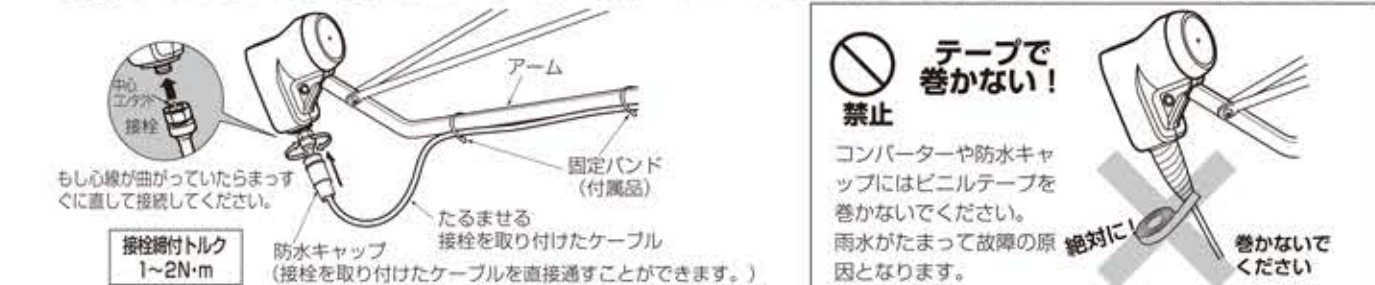
<S-5C-FBとF形接線の接続例>



- <ご注意>**
- ・4K/8K放送(3224MHz)に対応したS-5C-FBの同軸ケーブルをご使用ください。
 - ・同軸ケーブルの先端処理をする場合、心線、編組に傷をつけたり、心線、編組は絶対に接触しないようご注意ください。
 - ・編組と心線が接触しないようご注意ください。テレビが見えなくなるだけでなく、電源部がショートして火災や感電の原因となります。
 - ・接続を取り付けた同軸ケーブルの心線は、曲がっていないかを確認し、曲げないように接続してください。
 - ・加工方法はご使用になる防水形F形接線の取扱説明書をご覧ください。

<出力端子への接続>(付属の防水キャップ使用)

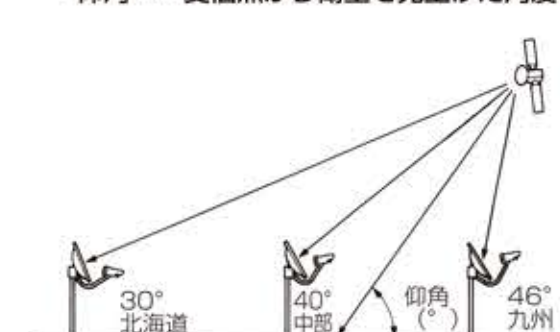
- ①図のようにコンバーターの出力端子に接続を接続し、スリナなどで1～2N・mで締め付けてください。(2N・mを超えると破損するおそれがあります。)
- ②同軸ケーブルに通しておいた防水キャップをコンバーターの防水キャップ溝に差し込んでください。
- ③防水キャップが曲がったり、変形してはならないように同軸ケーブルにはゆとりを持たせて付属の固定バンドでアームに固定してください。



施工説明書

調整方法 (つづき)

・仰角……受信点から衛星を見上げた角度



- ・仰角、方位角は地域により異なります。同じ地域でも場所により多少異なります。
- ・この仰角、方位角の表は調整の目安としてご参照ください。
- ・75形仰角調整範囲は、23°～67°(中間取付23°～51°)です。90形仰角調整範囲は、25°～65°(中間取付25°～55°)です。

■各都市の仰角と方位角(地域や場所によって異なります)

都市名	仰角(°)	方位角(°)	都市名	仰角(°)	方位角(°)	都市名	仰角(°)	方位角(°)	都市名	仰角(°)	方位角(°)
札幌	29.1	220.9	新潟	37.2	224.0	富山	38.7	220.7	徳島	41.8	218.8
旭川	30.1	222.5	水戸	37.0	224.8	金沢	39.2	220.1	和歌山	42.0	219.9
網走	29.6	225.1	前橋	37.9	223.1	盛岡	40.1	221.1	鳥取	41.4	217.7
札幌	31.2	221.7	土浦	37.4	224.7	名古屋	40.1	221.5	松江	41.9	216.1
函館	32.5	221.7	さいたま	38.0	231.5	豊橋	40.2	222.3	岡山	42.3	217.9
青森	33.3	222.3	千葉	37.9	224.6	津	40.8	221.2	広島	43.4	216.2
盛岡	34.0	223.4	東京	38.0	224.4	福井	39.8	219.9	徳島	42.5	219.2
秋田	34.6	222.2	甲府	38.7	223.0	大津	40.9	220.2	高松	42.6	218.4
仙台	35.3	224.0	厚木	38.4	224.2	京都	41.0	220.0	松山	43.7	217.0
山形	35.6	223.4	横浜	38.3	224.5	奈良	41.4	220.2	高知	43.5	218.3
福島	35.9	223.9	長野	38.2	221.9	大阪	41.5	220.0	山口	44.3	214.4
新潟	36.6	222.1	静岡	39.4	223.3	神戸	41.5	220.0	北九州	44.7	214.4
山形	36.3	224.0	浜松	40.1	222.7	神戸	41.6	219.6	福岡	45.2	213.9

(注)各都市の方位角は真北からの角度です。方位磁石を用いて方位角を求めるときは、表示角度に約6.5度を加えてください。

施工説明書

調整方法

■ SHA751

BS・110度CSアンテナの方向調整は衛星からの電波を受信して行います。BS・110度CSアンテナの正確な方向調整はCS・BSレベルチェッカーまたはスペクトラムアナライザーなどを用いて実際に衛星からの電波を受信して行います。

- ①図のようにBS・110度CSアンテナにCS・BSレベルチェッカーを接続するか、または通電形2分配器を用いてスペクトラムアナライザー、BSデジタル放送対応テレビなどに接続してください。
- ②コンバーターへCS・BSレベルチェッカーなどからDC15V電源を供給してください。
(この項のご説明は、CS・BSレベルチェッカーを使用した場合で代表しています。)

- ③「各都市の仰角と方位角」(11ページ)の各部分でのBSを参考に④、⑤の作業を行ってください。

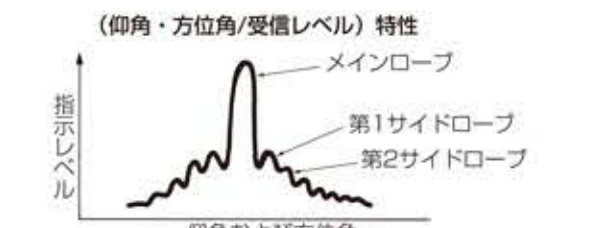
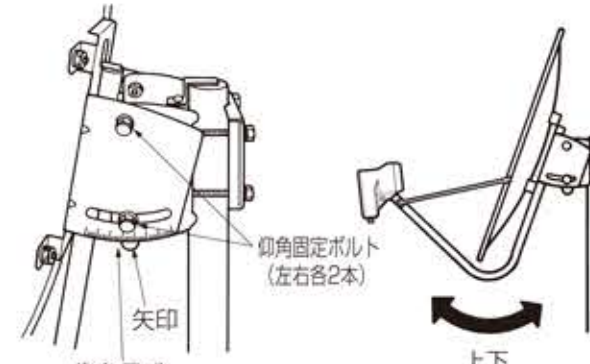
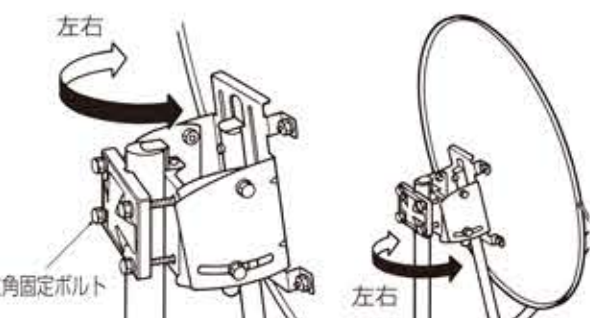
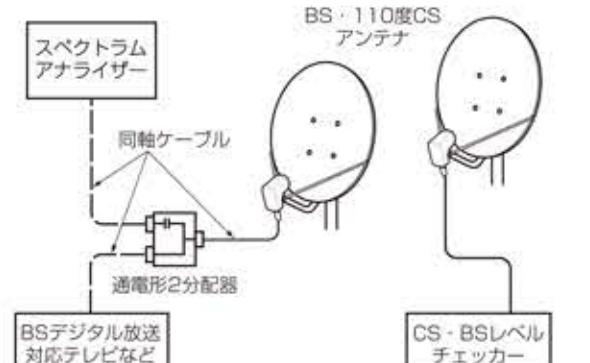
- ④アンテナの方向を左右にゆっくりと振ってCS・BSレベルチェッカーで受信レベルが最大となる方向に調整し、アンテナが左右にずれないように方位角固定ボルトを仮止めします。

- ⑤仰角固定ボルトを緩めてアンテナの方向を上下にゆっくり振って、CS・BSレベルチェッカーで受信レベルが最大となる方向に調整し、アンテナの方向が上下にずれないように仰角固定ボルトを仮止めします。④、⑤の操作を繰り返し行なってください。

※④、⑤の操作を行うときにスペクトラムアナライザーを使用する場合、サイドローブと間違えないために、最大受信レベルを乗り越えて次のピークとなるところまで仰角および方位角を調整して、図の特性になっていることを確認してください。その後、最大受信レベル時(メインローブ)の仰角および方位角にアンテナの方向を戻してください。

- ⑥最良の受信状態となった位置で、マスト押え金具の方位角固定ボルトを方向がズレないように(ご注意)を参考に左右交互に締めしっかりと固定します。

- ⑦最後にCS・BSレベルチェッカーで受信レベルを確認しながら仰角の調整を行い、最良の状態です4本の仰角固定ボルトを締めて、しっかりと固定してください。



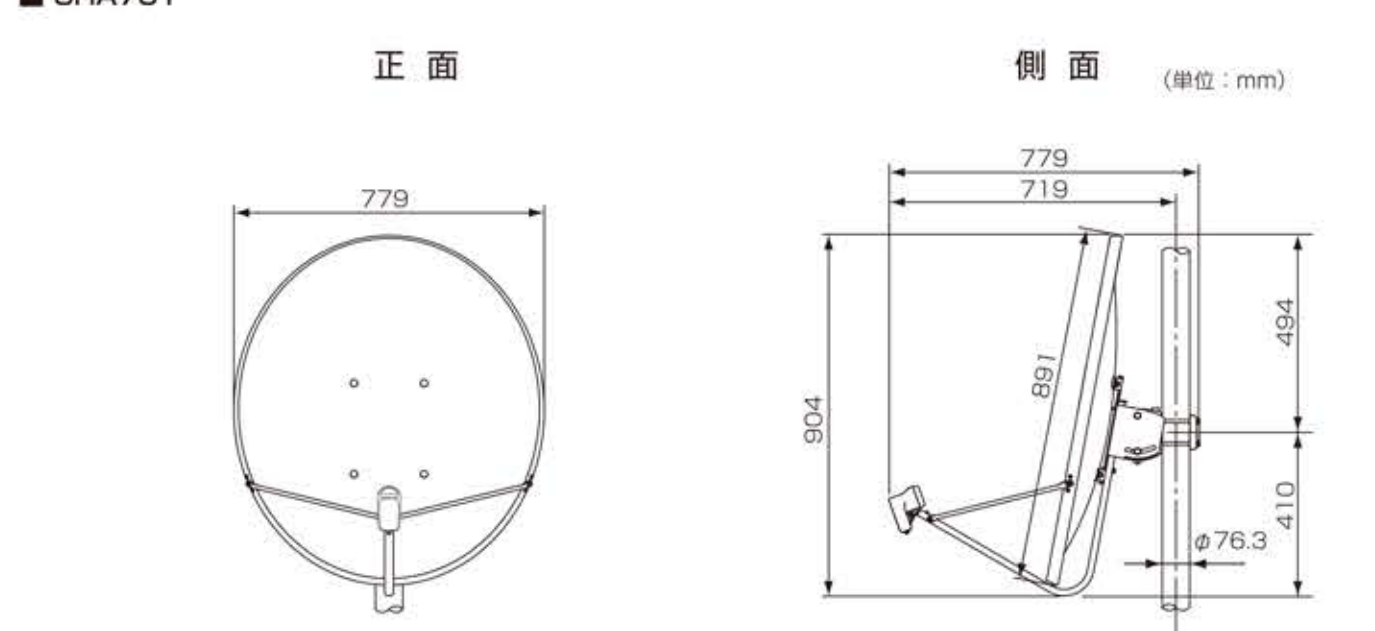
<ご注意>
方位角固定ボルトは4本が均等に締まるように、右図のAからDまで順番に2、3回必ず締めてください。

各ボルト締めトルク 8～10N・m

施工説明書

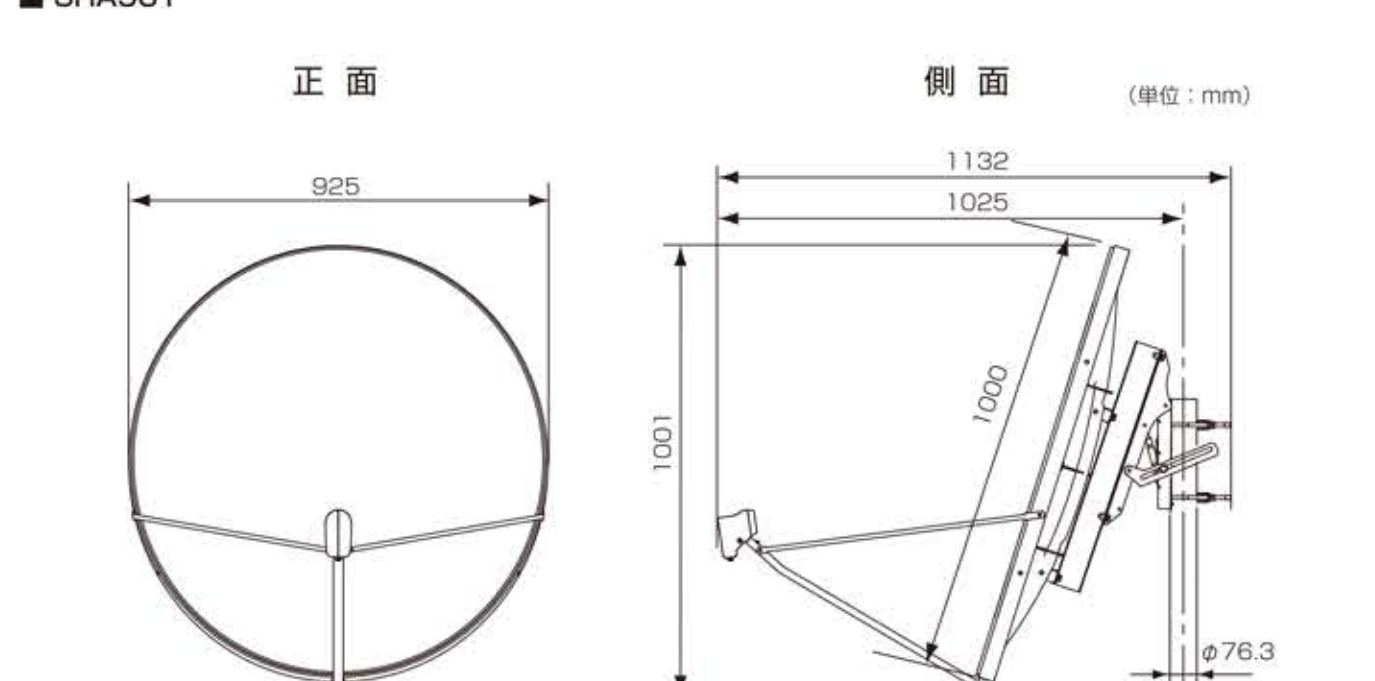
外形寸法図

■ SHA751



寸法はアンテナ仰角が40°、ポール径φ76.3mmの場合の最外形寸法です。

■ SHA901



寸法はアンテナ仰角が40°、ポール径φ76.3mmの場合の最外形寸法です。

カスタマーセンター
0570-033-083
DXアンテナ株式会社
一部IP電話で上記番号がご利用にならない場合:050-3818-9016
https://www.dxantenna.co.jp/5129-3